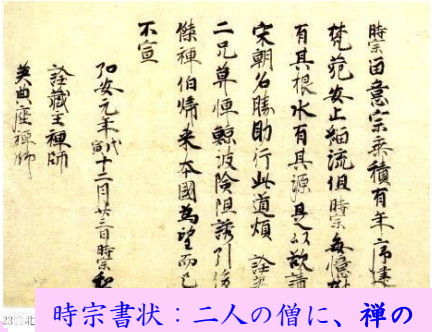
鎌倉史跡を巡る：11 月：円覚寺と建長寺の宝物拝観

北条時宗は、文民統治の南宋末期大陸から蘭渓道隆没後の禅宗指導者を請来。これに応じたのが無学祖元。“この時の無学祖元の思い”や“時宗との篤い信頼関係”を想像できる遺産は興味深いものがある。
前者の一つは、師の無準師範の衣「**海松色宝尽文綾九条袈裟**」で、兄弟子環渓惟一から祖元へ「唱道をもってこれを伝うべし」とされたもの。二つは宋代彫漆「**醉翁亭図堆黒版**」：北宋の政治家欧陽脩の「醉翁亭記」を表現、僧智遷が「**醉翁**」の為に瑯琊山を望む山中に建てた「**醉翁亭**」での宴の様子を刻していると。後者は時宗の請来要請の「**北条時宗書状**」、円覚寺への寄進地「**尾張国富田荘図**」、対する祖元の礼状「無学祖元の墨跡：「**尺牘**」に、時宗から施入報告があったその日のうちに認めた**礼状**とされ、両者の篤い信頼関係を知る。

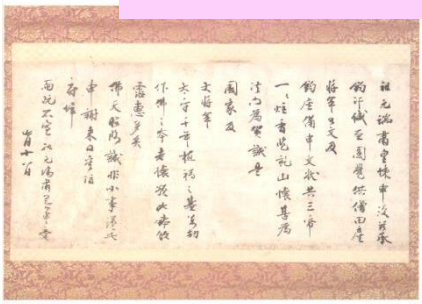
元撃退の**名執権時宗**



時宗書状：二人の僧に、**禅の指導者**の請来を依頼した書状

尾張国・富田荘図

無学祖元墨跡　尺牘

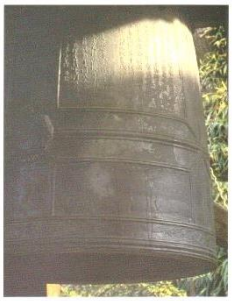


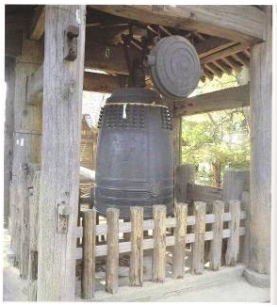
時頼の師：無学祖元像

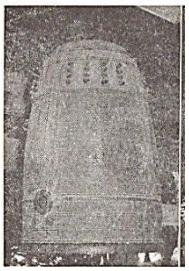
南宋～元時代の「海松色宝尽文綾九条袈裟」

醉翁亭図堆黒盤

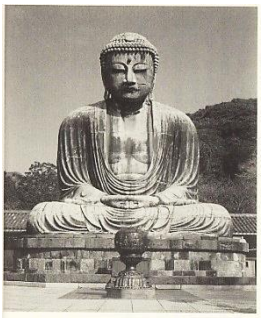
建長寺・円覚寺の梵鐘は、その巨大な姿が感動的な国宝である。この二つの国宝の梵鐘は由緒・逸話が知られていて興味深い！　**別に高徳院には国宝の鎌倉大仏**があるが、この**大仏様は極端に記録が少なく謎が多い。**　鎌倉に残る鋳造遺産は少ないが、この両鐘と同年代頃に鋳造された、建長寺・円覚寺関連の寺院の梵鐘作品を並べ、造立年次や製作者を記してみた。様々な想像をめぐらしてみるのも一興か！







挿図42　称名寺梵鐘　国光作



常楽寺	建長寺	円覚寺	称名寺	高徳院
1248 年	1255 年	1301 年	1301 年	1252～64 年？
	物部重光	物部国光	物部国光、依光	
執権時頼が祖父泰時追善のため鋳造、銘文藤原行家。鎌倉最古の銘文記録梵鐘	銘文には鋳造年と共に、時頼大旦那、蘭渓道隆が銘文を書くと。	関東最大の洪鍾 銘文選者：円覚寺第六世西硼子曇	実時鋳造の鋳直し 金沢八景・ 「**称名寺晩鐘**」？	浄光上人勧進**木造仏：1238～1244 年完成。** 鋳造仏、鋳造開始 1252 年？